

1. 研究課題

研究課題 自然と子どもの心を未来につなぐ環境教育の地域連携についての研究
 ～「エネルギー」「国際理解」「食」を土台にした環境教育から迫る「E S D」～

2. 研究内容

本校の環境教育は、総合的な学習の時間を中心とし、教科等との連携を図り、学校教育全体で、学年ごとの「環境E S Dカレンダー」を作り、実践に「取り組んでいる。「環境E S Dカレンダー」は「エネルギー教育」「国際教育」「食育」の観点から、新学習指導要領の趣旨に沿って改編し、これまでの外郭団体等との連携を維持しながら、小・中連携や地域連携などの「交流と連携」による環境教育の充実を推し進めている。



小学校での環境プレゼン

3. 具体的な取り組み

〈環境教育全体に関わる取組〉

- ・「企業の社会的責任報告書」から環境を考える。
- ・アルミ缶、ペットボトルキャップ回収活動
- ・夏休み環境課題（作文、写真、ポスター等）
- ・小・中合同クリーンアップ
- ・環境学習発表会（学校祭で）
- ・親水公園クリーンアップ
- ・環境教育講演会

〈「エネルギー教育」の視点からの取組〉

- ・緑のカーテンプロジェクト
- ・環境出前プレゼン（南地区の小学校へ）
- ・大仙市環境家族宣言参加
- ・ワークスクーリングでのエコ学習
- ・地熱発電所・能代火力・風力発電所、木質バイオマス発電所見学
- ・地元一級建築士による「エコハウス」「エコシティー」出前授業
- ・企業による出前授業



発電所見学

〈「国際教育」の視点からの取組〉

- ・秋田商業高校、国際理解から環境を考えるワークショップ参加
- ・ネパール太陽光ランタン募金（NGO RACICAへ）
- ・大仙市国際交流フェア参加

〈「食育」の視点からの取組〉

- ・緑のカーテンプロジェクト開始
- ・「有機肥料で育てる野菜」栽培
- ・微生物の役割についての講演会（大曲農業高校と連携）
- ・省エネクッキング出前授業（あきた地球環境会議）
- ・大仙市食生活改善推進委員による調理授業



親水公園クリーンアップ

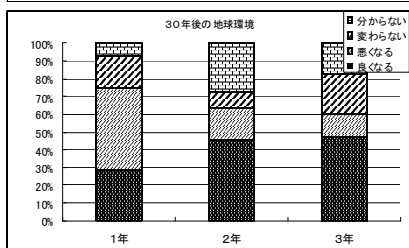
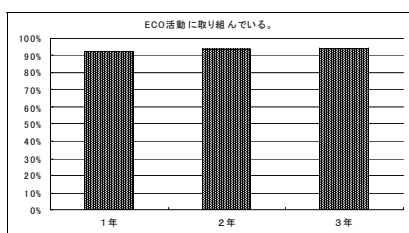
4. 地域との連携

- ・環境出前プレゼンテーション
小学校に出向き「環境」についてのプレゼンテーションを行う。
- ・緑のカーテン（ゴーヤ）を地域とともに育て、夏の節電に取り組む。
- ・学校祭での環境収益金
NGOを通じて、ネパールの孤児院にソーラーランタンを届ける。
- ・小・中合同クリーンアップ
- ・小・中連携環境デー及び環境講演会の地域への公開
- ・ゴーヤの無料配布



給食残飯利用の有機野菜栽培

5. 研究の成果



左のアンケート結果（11月実施）を見ると、「何らかのECO活動をしている。」と答えた生徒が全学年で90%以上になっている。節電、節水、ゴミの分別などが習慣化したと答える生徒や、家庭でのエコバックの使用を家族に勧める生徒が見られるなど、活動の広がりが感じられる。

「30年後の地球環境はどうなっているか？」という問いでは、「現在よりも地球環境が良くなる。」と答える生徒が学年を経るごとに増えている。環境学習を継続してきたことで、自分たちで未来を切り開き、持続可能なよりよい社会を創ることができるという自信が芽生えたのではないかとと思われる。



緑のカーテン（ゴーヤ）



地域へのゴーヤ無料配布